日蓮大聖人御書全集

だいがくどのこと

大学殿の事

新版
2160

大学殿の事

祈

おお

被

覚

そうら

いのりなんどの仰せ、こうぼるべしとおぼえ候わざりつ

仰

給

そうらう

忝

師

るに、おおせたびて候 ことのかたじけなさ。かつはしな

でし

檀 那

おん

頸

り、かつは弟子なり、かつはだんななり。御ためにはくびも

斬

おんる

そうら

代

きられ、遠流にもなり候え。かわることならば、いかでか

代

かな

そうらう

かわらざるべき。されども、このことは叶うまじきにて候

ぞ。

だい 学

もう

ひと

ひと

似

にちれん

ご 勘

気

大がくと申す人は、ふつうの人にはにず、日蓮が御かんき

とき

み

捨

方

人

そうら

ひと

いちだい

の時、身をすてて、かとうどして候いし人なり。この一代

じょうどの おんはか

は城殿の御計らいなり。城殿と大がく殿は知音にておわ

じょうどの だい どの ちいん

そうろう

し候。その故は、大がく殿は坂東第一の御てかき、

ゆえ

だい

どの

ばんどうだいいち

おん手書

じょうのすけどの

おん手

好

ひと

城介殿は御てをこのまるる人なり。